

## 平成13年度水質汚濁の状況について

### II 公共用水域水質測定結果の概要

#### 測定結果の総括

- 健康項目のうち砒素が、火山地帯の自然的要因に由来して1河川2地点で環境基準を達成していない。また、ほう素については9河川9地点で環境基準を達成していない。ほう素は自然状態において海域に相当程度含まれており、環境基準を達成していない9地点は河口域にあることから、海水の影響を受けたものと考えられる。
- 生活環境項目の代表的指標であるBOD又はCODの環境基準達成水域は、48水域(河川31水域、湖沼4水域、海域13水域)中38水域(79%)であり、前年度より3水域減少している。河川、湖沼、海域別の達成状況は、河川で4水域減少、海域1水域増加、湖沼は前年度と同様であった。これを長期的にみると、河川については、下水道の整備や法・条例による工場・事業場の規制、指導などによる効果がみられて改善傾向にある。  
また、湖沼、海域については、昭和60年代からほぼ横ばいの傾向にある。
- 東京湾における全窒素、全燐の環境基準の達成水域は、4水域中1水域で達成している。

#### 1 項目別測定結果

##### (1) 健康項目

健康項目(26項目)については、砒素が早川の観光会館前等の2地点で、ほう素が鶴見川の臨港鶴見川橋等9河川9地点で、それぞれの年間平均値が環境基準値を超過しており、環境基準を達成していない。その他の地点では、すべての項目が環境基準を達成している。(表1)

表1 健康項目の調査結果

水域区分	健康項目	測定地点数	環境基準達成地点数	達成率(%)
河川・湖沼・海域	1 カドミウム	134	134	100
	2 全シアン	134	134	100
	3 鉛	134	134	100
	4 六価クロム	134	134	100
	5 砒素	134	132	98.5
	6 総水銀	134	134	100
	7 アルキル水銀	69	69	100
	8 PCB	76	76	100
	9 ジクロロメタン	131	131	100
	10 四塩化炭素	131	131	100
	11 1, 2-ジクロロエタン	131	131	100
	12 1, 1-ジクロロエチレン	131	131	100
	13 シス-1, 2-ジクロロエチレン	131	131	100
	14 1, 1, 1-トリクロロエタン	131	131	100
	15 1, 1, 2-トリクロロエタン	131	131	100
	16 トリクロロエチレン	134	134	100

17 テトラクロロエチレン	134	134	100
18 1,3-ジクロロプロペン	131	131	100
19 チウラム	131	131	100
20 シマジン	131	131	100
21 チオベンカルブ	131	131	100
22 ベンゼン	131	131	100
23 セレン	131	131	100
24 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	144	144	100
25 ふっ素	82	82	100
26 ほう素	89	80	89.9

(2) 生活環境項目

ア BOD又はCODの環境基準の達成状況

BOD又はCODの環境基準達成水域は、48水域(河川31水域、湖沼4水域、海域13水域)中38水域(79%)であり、前年度より3水域減少している。これを河川、湖沼、海域別にみると、河川が25水域(81%)、湖沼が3水域(75%)、海域が10水域(77%)となっており、河川は4水域減少し、海域は1水域増加し、湖沼は前年度と同様であった。

これを長期的にみると、河川については、下水道の整備や法・条例による工場・事業場の規制、指導などによる効果がみられて、改善傾向にある。湖沼及び海域については、昭和60年代からほぼ横ばいの傾向にある。(図1)

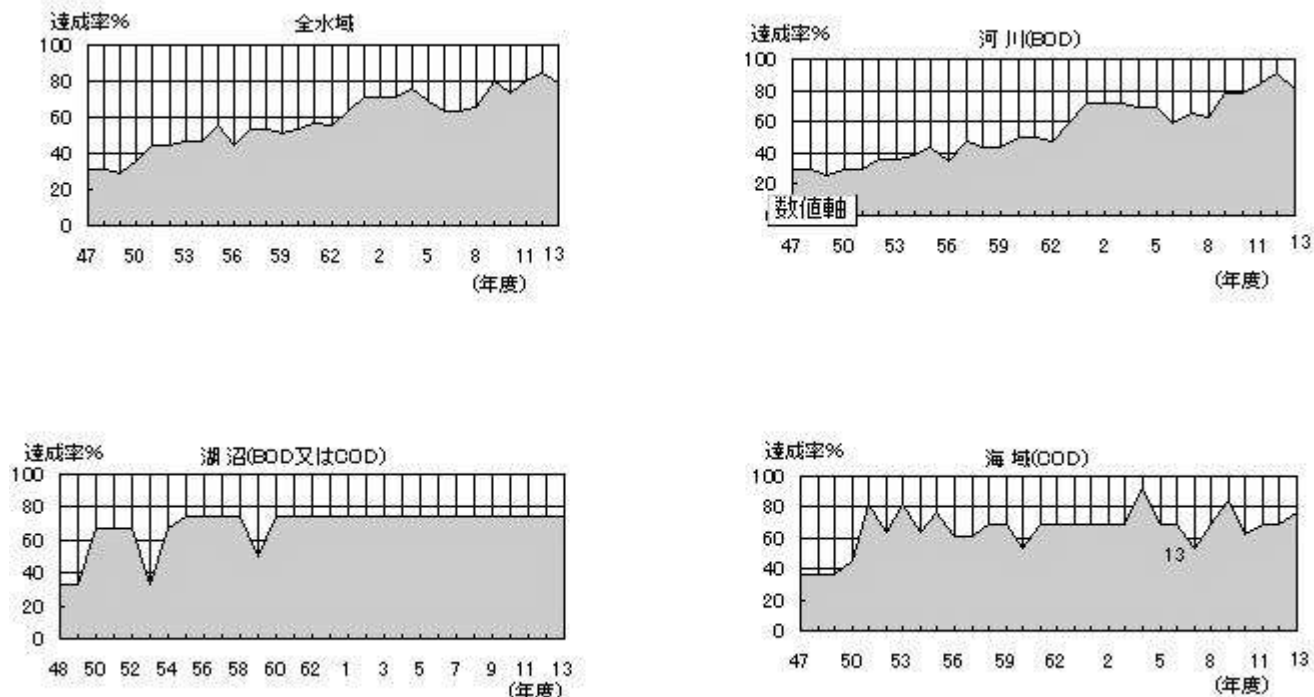


図1 BOD又はCODの環境基準の達成率

イ 東京湾における全窒素及び全燐の環境基準の達成状況

平成7年2月に水域類型が指定された東京湾6水域のうち神奈川県分の4水域について、東京都及び千葉県の測定地点のデータを含めて達成状況をみると、東京湾(ハ)で全窒素、全燐が環境基

準を達成しているが、東京湾(口)、東京湾(二)及び東京湾(ホ)は達成していない。(図2)

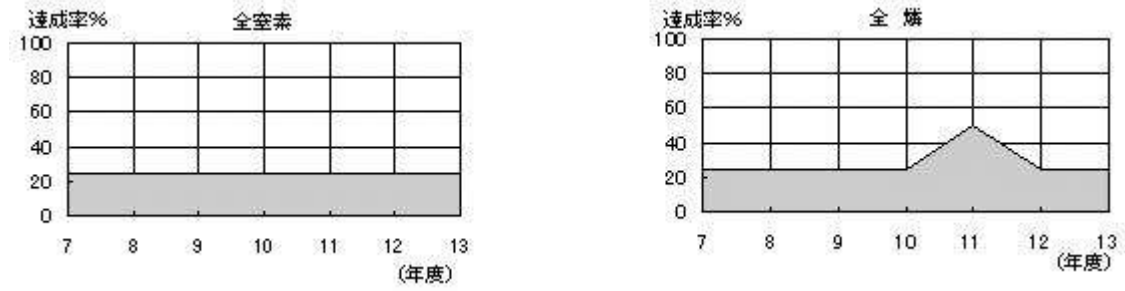


図2 全窒素及び全燐の環境基準の達成率